

● 高齢出産率の推移 (%)

(人口動態統計)

区分	平成16年 (2004年)	平成17年 (2005年)	平成18年 (2006年)	平成19年 (2007年)	平成20年 (2008年)
広島市	13.9	14.6	16.9	18.0	19.7
全国	15.3	16.4	17.7	19.4	20.9

イ 低出生体重児

広島市の低出生体重児^(注)の率は、平成18年(2006年)以降、全国と同様に横ばい状態です。

注：出生体重が2500グラム未満の乳児

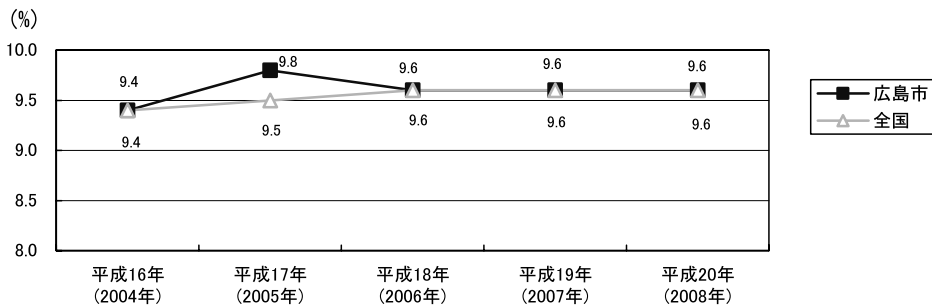


図10 低出生体重児出生率

● 低出生体重児出生率の推移 (%)

(人口動態統計)

区分	平成16年 (2004年)	平成17年 (2005年)	平成18年 (2006年)	平成19年 (2007年)	平成20年 (2008年)
広島市	9.4	9.8	9.6	9.6	9.6
全国	9.4	9.5	9.6	9.6	9.6

【乳幼児期】

ウ 保育園入園待機児童数の推移

広島市の4月1日現在の待機児童数は、平成17年度(2005年度)をピークに平成20年度(2008年度)までは減少していましたが、平成21年度(2009年度)は増加しています。

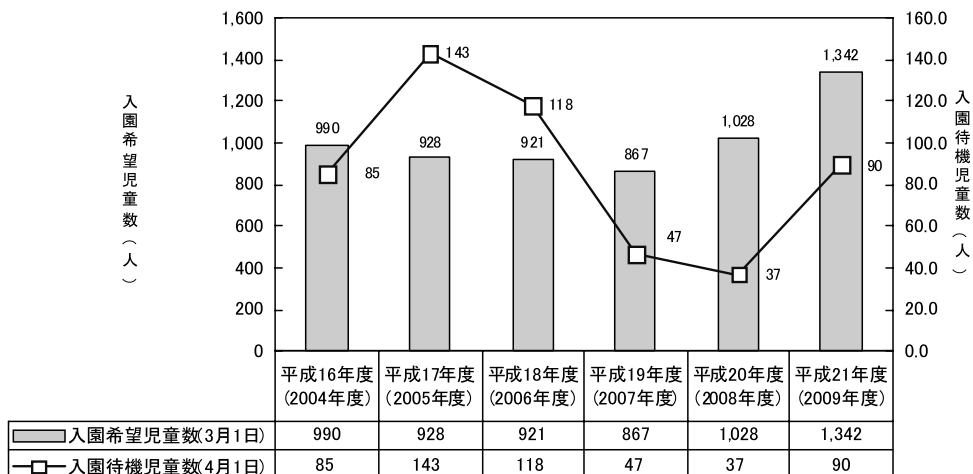


図11 入園待機児童数の推移

エ 広島市の就学前の子どもの居場所

6歳未満の子ども全体で見ると、総数67,597人に対し、保育園入園児は20,618人で30.5%、幼稚園入園児は16,839人で24.9%、自宅等で過ごしている乳幼児は30,140人と44.6%となっています。

3歳未満の乳幼児の場合をみると、総数34,191人に対し、保育園入園児が7,502人でその割合は21.9%ですが、自宅等で過ごしている乳幼児は26,689人と、78.1%を占めています。

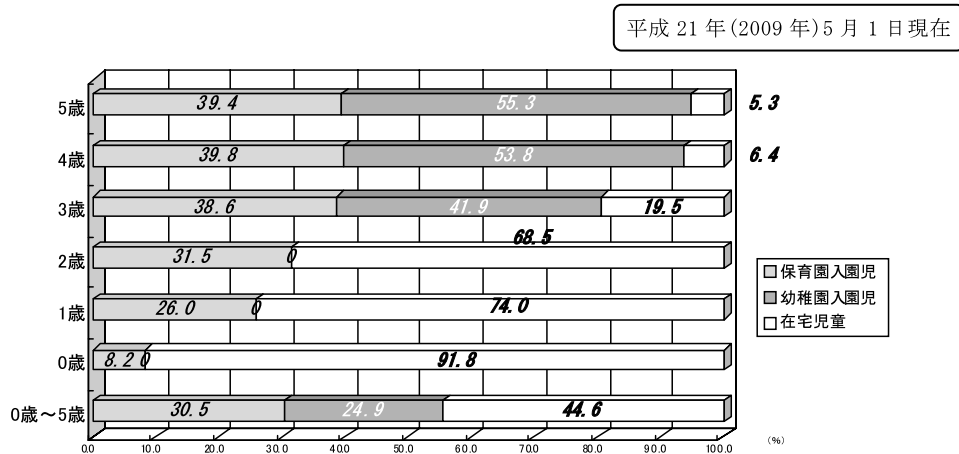


図12 保育園・幼稚園の入園状況

オ 子育て家庭の孤立、子育てに対する不安、ストレス等を感じる親の増加

4か月児健康相談で、ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間があると回答した親の割合は、平成18年度（2006年度）以降減少しており、平成20年度（2008年度）は88.2%です。

一方で、子育てをされていていららすることが多いと回答した親の割合は、平成18年度（2006年度）以降ほぼ横ばい状態で、平成20年度（2008年度）は若干減少し、20.9%となっています。

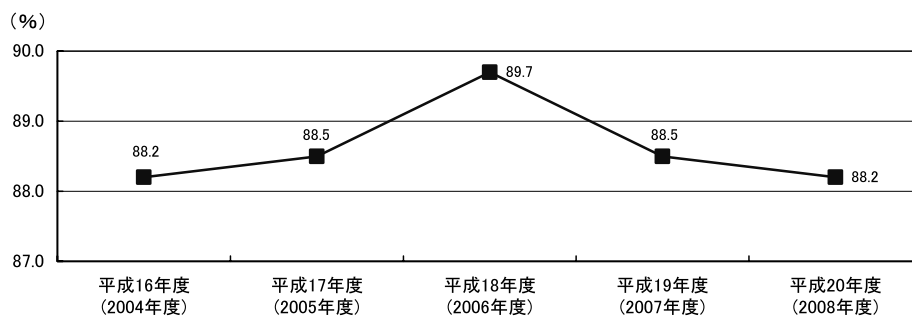


図13 ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間があると回答した親の割合

● ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間があると回答した親の割合 (%) (広島市こども未来局)

区分	平成16年 (2004年)	平成17年 (2005年)	平成18年 (2006年)	平成19年 (2007年)	平成20年 (2008年)
広島市	88.2	88.5	89.7	88.5	88.2

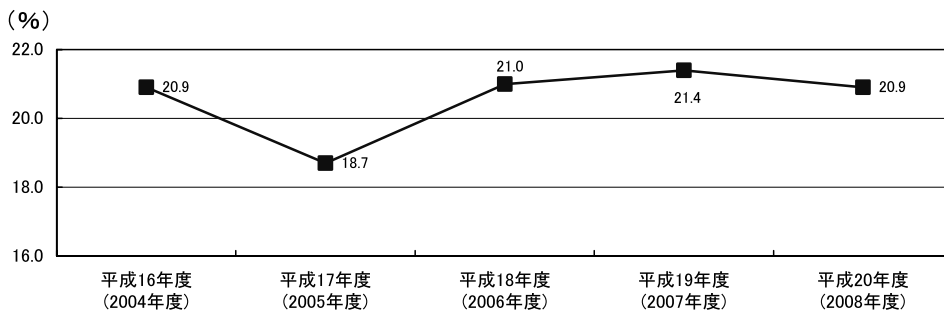


図14 子育てをされていていららすることが多いと回答した親の割合

●子育てをされていていららすることが多いと回答した親の割合 (%) (広島市こども未来局)

区分	平成16年 (2004年)	平成17年 (2005年)	平成18年 (2006年)	平成19年 (2007年)	平成20年 (2008年)
広島市	20.9	18.7	21.0	21.4	20.9

カ 育児休業制度の利用

育児休業制度の利用希望について、平成14年度(2002年度)と平成20年度(2008年度)を比較すると、女性従業員、男性従業員ともに、「利用しようと思う人」は、平成14年度(2002年度)から平成20年度(2008年度)で増加し、「利用しようと思わない人」は、平成14年度(2002年度)から平成20年度(2008年度)で減少しています。

育児休業制度を利用しない主な理由として、女性従業員は、「上司や同僚に気兼ねする」、「会社の制度が整備されていないので申請しにくい」をあげた人がそれぞれ3割程度で、男性従業員は、「休業中の収入が減少する」、「子どもの世話をしてくれる人がある」をあげた人が4割程度となっています。

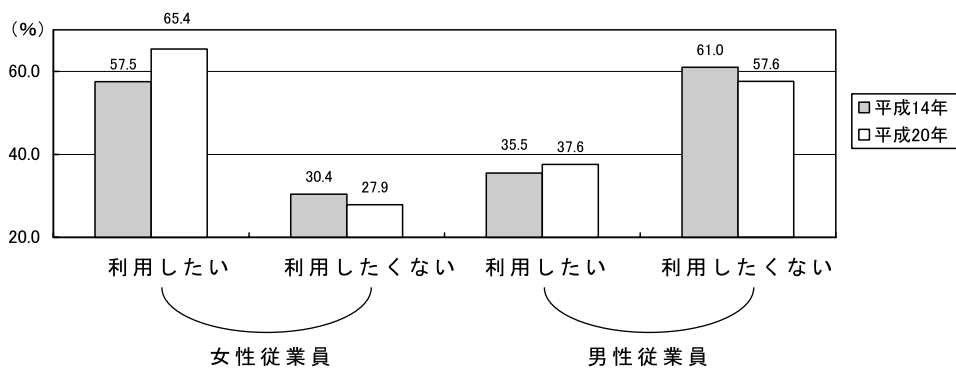


図15 育児休業の利用希望

●育児休業の利用希望 (%) (広島県働く男女の雇用環境実態調査)

区分	利用したい		利用したくない	
	平成14年度 (2002年度)	平成20年度 (2008年度)	平成14年度 (2002年度)	平成20年度 (2008年度)
女性従業員	57.5	65.4	30.4	27.9
男性従業員	35.5	37.6	61.0	57.6

キ 児童虐待の相談・通告件数の推移

児童虐待の相談・通告件数（18歳未満人口に対する相談・通告件数の割合（人口千対））は、全国では増加傾向ですが、広島市では平成18年度（2006年度）以降減少しています。

また、年齢構成割合は、就学前の子ども（0歳～学齢前）の割合が全体の約5割と高くなっています。

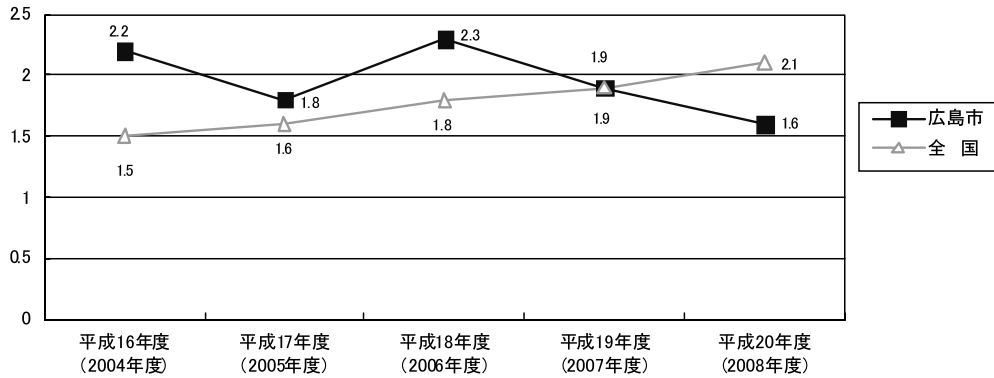


図16 18歳未満人口に対する虐待相談・通告件数の割合

●相談・通告件数（人口千対）

（広島市：相談・通告受理件数報告）
（全国：厚生労働省相談処理件数報告）

区分	平成16年度 (2004年度)	平成17年度 (2005年度)	平成18年度 (2006年度)	平成19年度 (2007年度)	平成20年度 (2008年度)
広島市	461	365	479	385	330
全国	33,408	34,472	37,323	40,639	42,664

●18歳未満人口に対する相談・通告件数の割合（人口千対）

（広島市：相談・通告受理件数報告）
（全国：厚生労働省相談処理件数報告）

区分	平成16年度 (2004年度)	平成17年度 (2005年度)	平成18年度 (2006年度)	平成19年度 (2007年度)	平成20年度 (2008年度)
広島市	2.2	1.8	2.3	1.9	1.6
全国	1.5	1.6	1.8	1.9	2.1

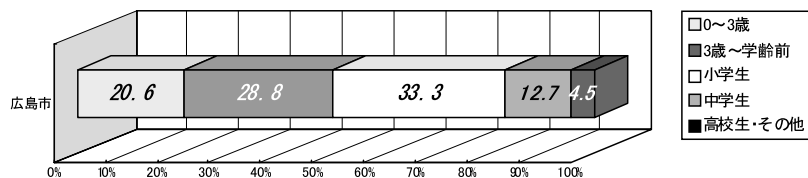


図17 相談・通告のあった児童の年齢構成

●相談・通告のあった児童の年齢構成 (%)

（広島市：平成20年度（2008年度）相談・通告受理件数報告）

区分	0～3歳	3歳～学齢前	小学生	中学生	高校生・その他
広島市	20.6	28.8	33.3	12.7	4.5

ク こども療育センターにおける自閉症、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）などの発達障害にかかる新規相談件数の推移

こども療育センターにおける自閉症^(注1)、学習障害（LD）^(注2)、注意欠陥多動性障害（ADHD）^(注3) 発達障害にかかる新規相談件数は、平成17年度（2005年度）以降増加しています。

注1：他人との社会的関係の形成の困難さ、言語の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害

注2：基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すもの

注3：年齢又は発達に不釣り合いな注意力、衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすもの

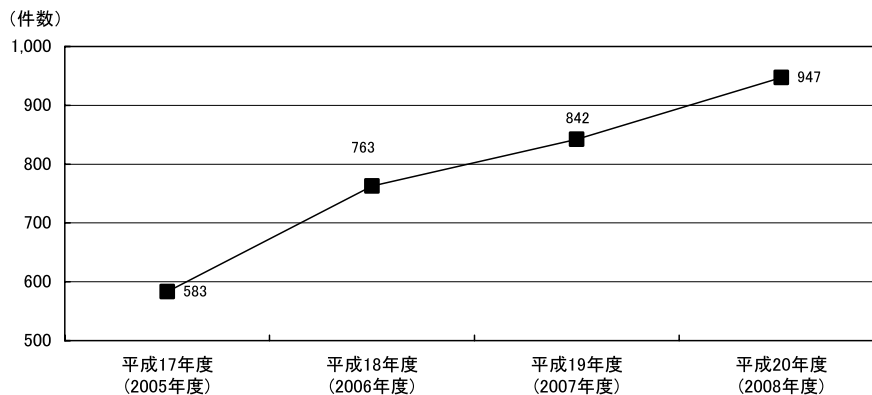


図18 相談件数

●相談件数（人） (広島市こども療育センター)

区分	平成17年度 (2005年度)	平成18年度 (2006年度)	平成19年度 (2007年度)	平成20年度 (2008年度)
広島市	583	763	842	947

【児童期（小学生）・思春期】

ケ 小・中学生の朝食摂取状況

広島市の小・中学生で、朝食を「食べない」という児童生徒はやや減少しています。

●小・中学生の朝食摂取状況の割合（％） (広島市教育委員会)

区分	平成19年(2007年)6月		平成20年(2008年)6月		平成21年(2009年)6月	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
毎朝食べる	88.9	82.9	90.0	84.1	89.9	84.1
ほとんど食べる	7.7	11.0	6.5	9.4	7.2	9.7
あまり食べない	2.8	4.5	2.7	4.4	2.3	4.6
食べない	0.6	1.5	0.8	2.1	0.6	1.5

※市立の小学校5年生、中学校2年生を対象に調査したものである。

コ 体力度調査

「新体力テスト」において、平成19年度（2007年度）の広島市の児童生徒の体力が平成18年度（2006年度）の全国平均と比較して同じか上回っている項目の割合は、7歳から17歳のすべての年齢で5割以下となっています。

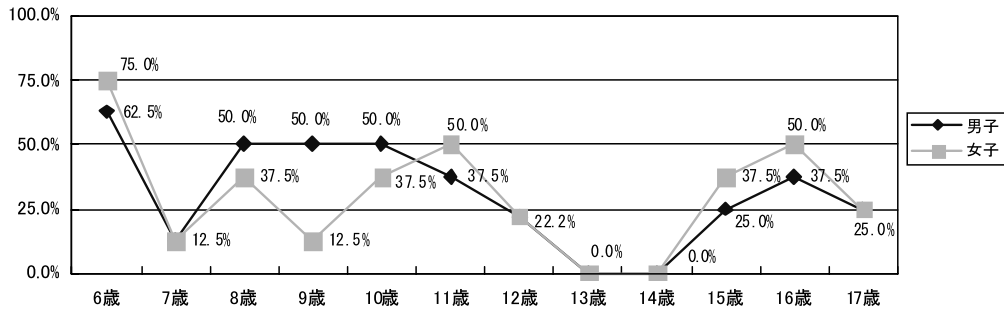


図19 広島市児童生徒の体力と全国平均との比較（広島市教育委員会）

サ いじめ認知件数、不登校児童生徒数、暴力行為発生数の推移

(ア) いじめ認知件数

平成18年度（2006年度）、いじめの定義が変更され、いじめのチェックリストを全学校に配付し、各学校において、より児童生徒の立場に立って、いじめの早期発見・早期対応に努めたことで、把握したいじめの認知件数が増加していましたが、平成20年度（2008年度）は減少しました。

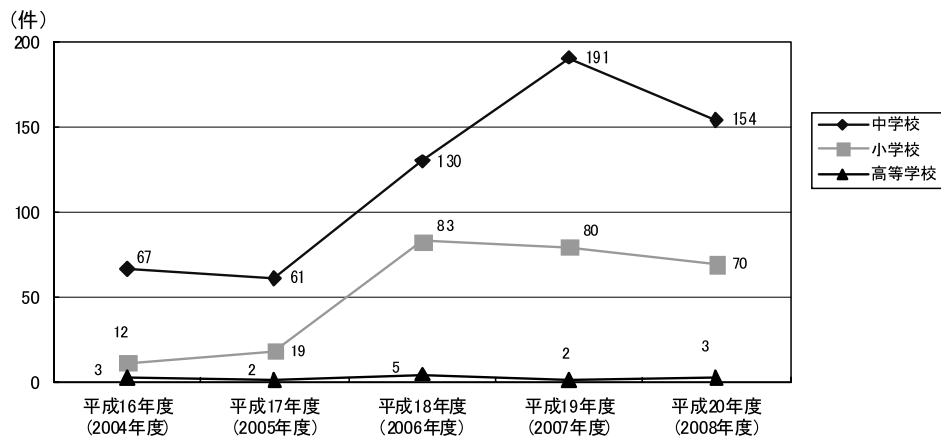


図20 いじめ認知件数の推移

● いじめ認知件数の推移（件）

（広島市教育委員会）

区分	平成16年度 (2004年度)	平成17年度 (2005年度)	平成18年度 (2006年度)	平成19年度 (2007年度)	平成20年度 (2008年度)
小学校	12	19	83	80	70
中学校	67	61	130	191	154
高等学校	3	2	5	2	3
合計	82	82	218	273	227

(イ) 不登校児童生徒数

小・中・高等学校での不登校は、ほぼ横ばい状態にあります。

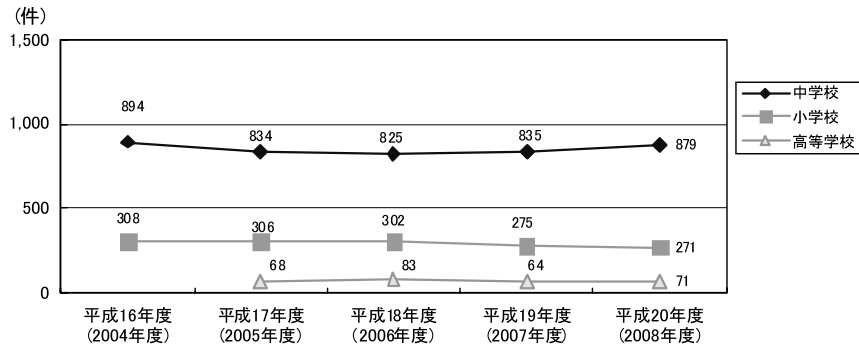


図21 不登校児童生徒数の推移

※高等学校は、平成17年度（2005年度）から調査を実施している。

●不登校児童生徒数の推移（件）

（広島市教育委員会）

区分	平成16年度 (2004年度)	平成17年度 (2005年度)	平成18年度 (2006年度)	平成19年度 (2007年度)	平成20年度 (2008年度)
小学校	308	306	302	275	271
中学校	894	834	825	835	879
高等学校	—	68	83	64	71
合計	1,202	1,140	1,127	1,110	1,150

(ウ) 暴力行為発生件数

小・中・高等学校での暴力行為は、増加傾向にありますが、平成20年度（2008年度）において著しく増加しているのは、一部の学校において、特定の児童生徒による暴力行為が繰り返し発生したことによるものです。

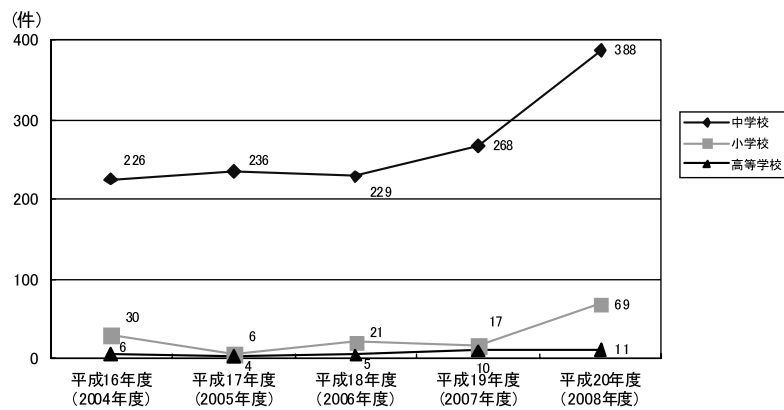


図22 暴力行為発生数の推移

●暴力行為発生数の推移（件）

（広島市教育委員会）

区分	平成16年度 (2004年度)	平成17年度 (2005年度)	平成18年度 (2006年度)	平成19年度 (2007年度)	平成20年度 (2008年度)
小学校	30	6	21	17	69
中学校	226	236	229	268	388
高等学校	6	4	5	10	11
合計	262	246	255	295	468

シ 10代の人工妊娠中絶率の推移

広島市の10代の人工妊娠中絶率は、減少傾向にあります。

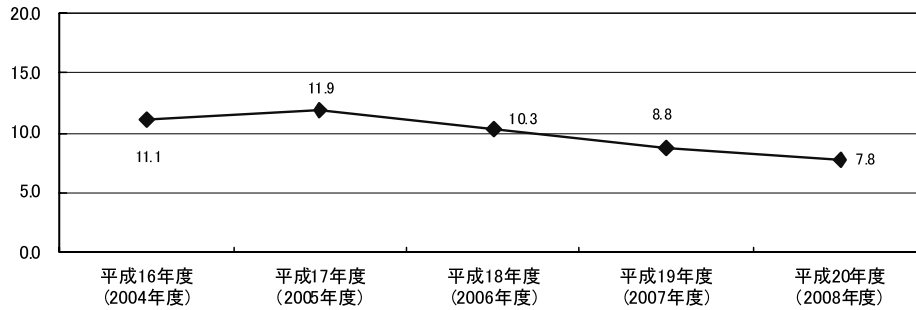


図23 10代の人工妊娠中絶率の推移

●10代の人工妊娠中絶率の推移 (15～19歳の女子人口千対) (広島市こども未来局)

区分	平成16年度 (2004年度)	平成17年度 (2005年度)	平成18年度 (2006年度)	平成19年度 (2007年度)	平成20年度 (2008年度)
広島市	11.1	11.9	10.3	8.8	7.8

ス 10代の自殺率の推移

広島市の10代の自殺率は、上昇傾向にあります。

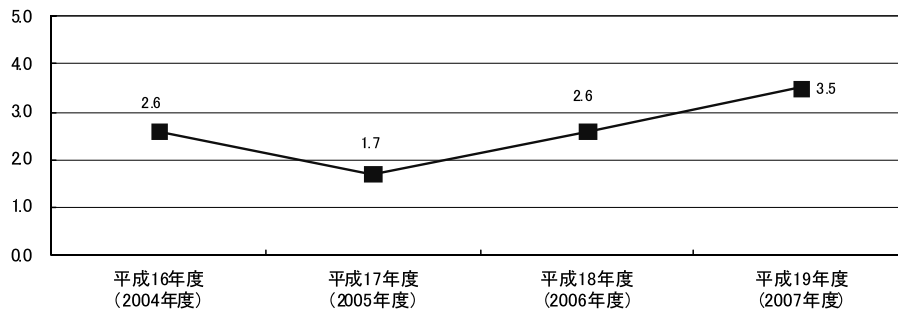


図24 10代の自殺率の推移

●10代の自殺率の推移 (10～19歳の人口10万対) (人口動態統計)

区分	平成16年度 (2004年度)	平成17年度 (2005年度)	平成18年度 (2006年度)	平成19年度 (2007年度)
広島市	2.6	1.7	2.6	3.5